

2018年9月18日

富山大学学長候補者 殿

富山大学教職員組合

TEL: 076-445-6023

[toyama@tu-union.org](mailto:toyama@tu-union.org)

## 公開質問状

富山大学教職員組合では、これまで、学長選挙（意向調査）に際し、学長候補となられた方に公開質問状をお送りし、大学が直面する諸問題に対する候補者のお考えなり抱負なりをうかがって、有権者が投票に臨む際の一助としてまいりました。ご多忙とは思いますが、下記の質問にご回答いただきますようよろしくお願い申し上げます。なお、この質問状とお寄せいただきましたご回答は、3キャンパスの教職員に配布する予定です。

投票前に教職員に配布する都合上、時間的余裕がなくまことに恐縮ではございますが、10月5日（金）の正午までに電子メールでご回答を組合へお寄せくださいますようお願い申し上げます。

### 1. 富山大学を発展させる施策について

富山大学を継続的に発展させるにあたって、どのような展望をお持ちでしょうか。また、そのための具体的な施策として、どのようなことをお考えでしょうか。

### 2. 事務職員の削減について

財政難を理由に事務職員の削減が進んでおり、その結果、職員の疲弊やパフォーマンスの低下といった弊害が生じています。これに対して、どのような対策をお考えでしょうか。

### 3. 人事の停滞について

人件費ポイントが削減された結果、教員人事（採用・昇任）が明らかに停滞している学部もあり、教員の業務量の増加やモチベーションの低下などが生じています。これに対して、どのような対策をお考えでしょうか。

### 4. 研究費の削減について

基盤研究費が今後削減される可能性も考えられますが、これらは大学の質の低下に直

結する深刻な問題であると考えます。これに対して、どのような対策をお考えでしょうか。

#### 5. 非常勤職員の常勤化について

非常勤職員の雇用期限が3年から4年に延長されましたが、依然として全国的に見れば本学の対応は遅れていると言わざるを得ません。5年への延長および無期限雇用への転換について、どのような展望をお持ちでしょうか。

#### 6. 大学運営について

現学長は大学運営についての意思決定について情報を開示せず、トップダウン型の運営をしていると考えられます。たとえば、文部科学省から予算がつかなかったにもかかわらず、都市デザイン学部の新設に踏み切り、結果として大学の経営危機を招いています。また現学長のもとで、ポイント制の名目で各部局の人的資源と財源を学長の下に吸い上げ、トップダウンで都市デザイン学部等特定分野に人的資源・財源を投入しようという姿勢が見られました。このような大学運営のあり方に対して、どのようにお考えでしょうか。

#### 7. 組織再編について

これまで教養教育院の設置、および都市デザイン学部の新設という組織再編をしました。また、これから「教教分離」を推し進めようとしています。これまでとこれからの組織再編について、どのようにお考えでしょうか。

#### 8. 財源問題について

現在富山大学では、大幅な財源不足のために、人件費や給与の削減など様々な弊害が生じています。これに対して、どのような対策をお考えでしょうか。